



# ビハーラ山陰公開講座

と き 2017(平成29)年2月25日(土)

と ころ 鳥根県立男女共同参画センター あすてらす

講 師 野の花診療所 院長 徳永 進 先生

テ マ 「死を受け止める10のこと」

## 生きるは○、死ぬはメか？

大田東組 浄賢寺 森山朝子

原稿依頼を受けたものの、時間の経過とともに講演内容が薄れ連休を迎えてしまいました。さて、はてと居た矢先、山陰中央新報の日曜特集に徳永先生司会の公開対談の記事。そうか、やはり書かなきゃなあ〜と、やっと机に向かいました。

生きる○、死ぬはメ、でしょうか？

死は不思議です。大切に、生きていく上で力にもなります。人任せで死にました。ではないし、死は忌み嫌われるものでもなく、死に対しての祝福があってもいいのでは？…。など、現場の方にとって、当たり前死(看取り)の様子や感情を、決して重くせず、さりげなく、時にはおもしろく「ごによごによっ〜」「あわわ〜」などと表現しながら、とても意味深く、お話下さいました。

死が生き方の一部として自然にあり、死は種を持つもの。祝福の死が生きることを助け、治すという思いに変わることもある。死は滅多にない宝物で、個々の中にその人らしくあるべきであり、簡単に死ねない。死なさないものである。『息を引き取る…』その事は、息を引き継ぐ事で、息を吸うは頂く、吐くは戻す(返す)事だと生物学的な説明も交えながら頂きました。意志を貫く生き方をしたとしても、残された者には深い悲しみを伴う事もあります。大きなものを見失った心の穴は、空いたまま生きていこう。自分もご先祖様になるんだからとのお話が、ストーンと私の胸に落ちました。

「浄土に向かって歩むとは？」がいつも気持ちのどこかにある私です。生き方を含め、どのような死に方を望むのかは家族でも考えてみたいと思いました。

講演の合間には、先生のハーモニカ演奏の音色に癒され、《野の花診療所》にもこの音色が流れていることだろうなあ〜、と思いを馳せたことでした。

## お浄土で会える

江津組 光善寺(波積町) 田儀セツ子

この度、大田あすてらすに於いて開催されたビハーラ山陰公開講座に参加させていただきました。

ご講師は、鳥取県(野の花診療所院長)徳永進先生でした。鳥取市にてホスピスケアのある有床診療所「野の花診療所」を始めて、今年で16年目となられるとのことでした。

「ビハーラ活動」耳なれたことばとしておりましたが、お話を初めて聞かせていただくなか、なんと温もりのある講座なんだろうと思わず手を合わさずにはおれませんでした。

30年前にもなりますが、坊守様との予期してもしなかった突然の別れとなりました。流した涙はどれ程のことだったでしょう。

日々なぜこんなに悲しいのかと自分を見失うようでした。そんな時、私にお教え下さいました。貴方にとって大切な方はきっとお浄土で見守っておられると聞かせて下さいました。又会える!! お念仏を申しましょと来る日も来る日もお聞かせ下さいました。

ぽっかりと大きな穴があいたままそのままに生かされてゆくことのいのちの大切さをおし、私にお念仏申すことを教えて下さったあの日のことを思いながら、公開講座で学べたことを喜ばせていただきました。

